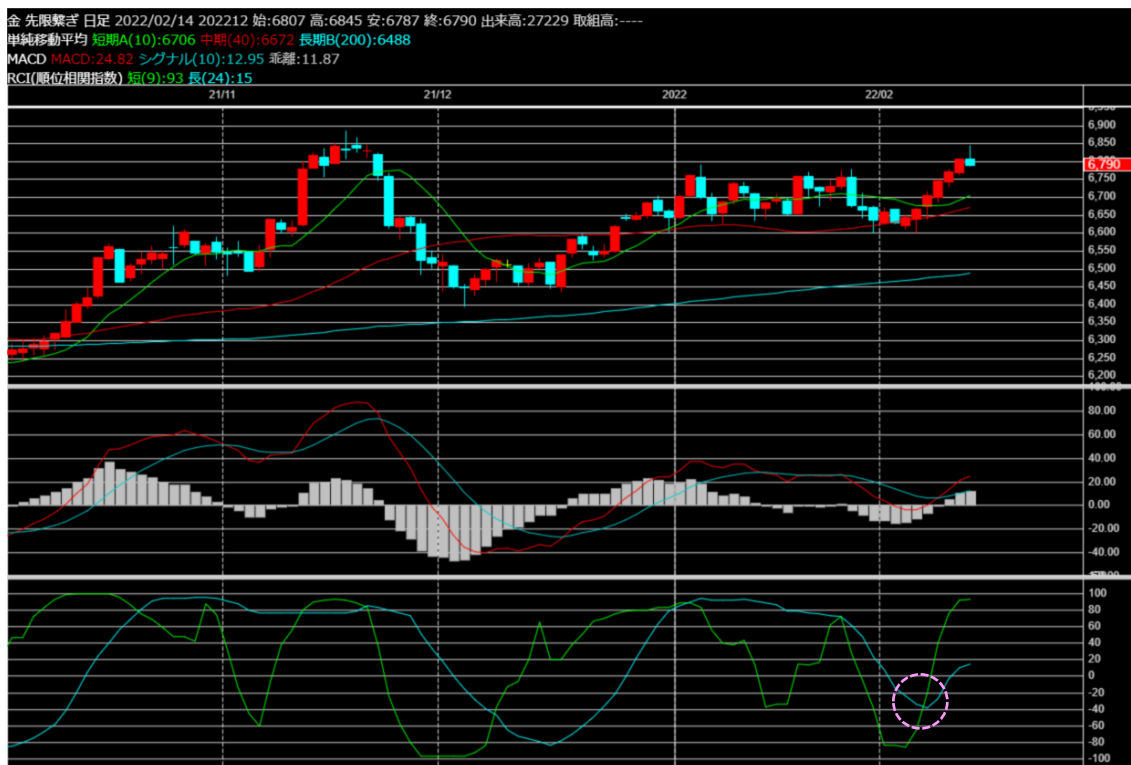


<金標準先物、インフレ高や地政学的なリスクの逃避買い・・・>



(出所：オアシス)

消費者物価指数（CPI）は40年ぶりの前年比7.5%と大きな上昇を示している。今年のFOMCメンバーでタカ派のブラード・セントルイス連銀総裁は「7月まで3回のFOMCで1%のFFレートの引き上げ」と発言し、1度に0.5%の利上げを示唆している。しかしウクライナ情勢では、ロシア軍とベラルーシ軍の合同軍事演習が10日～20日に掛けて実施される事を受け、サリバン米国大統領補佐官は記者会見を行いロシアによるウクライナ侵攻について「いつ始まってもおかしくない」と危機感をあらわにし、米国民に対しては11日午後2時時点から48時間以内に国外退避するよう警告している。

そのためNY金はCPIの上昇を受け、10年物国債金利は一時2%を超える上昇を示し、1821ドルまで下値を模索したが、地政学的なリスクの高まりを受けた金利低下やドル安の動きに1867.4ドルまで反発している。

特に金標準先物は週末に6845円まで高値を試しているが、週末のウクライナ情勢を受け11月17日に試した高値6886円を再度試す可能性は高まっている。ただウクライナ情勢は一過性の要因であり、高値を試した後は利食いに押される可能性は高くなると予想される。

<テクニカル>

金標準先物の日足をMACDとRCIで見ると、MACDではMACDとシグナルが切り上げ続けている。しかしRCIでは短期の上昇が止まり、長期も上昇に陰りを示している。また日足が10日移動平均線と乖離を拡げており、6850円で高値が止まる可能性はあると思え、戻り売りの値動きが予想される。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 462,000 円(2022 年 2 月 14 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 33,000 円(2022 年 2 月 14 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>